



「広報にいかっぷ第400号」

平成10年1月号

表紙には、マヤノトップガンが新冠に帰ってきた時の歓迎の写真が掲載されています。

『マヤノトップガン』は、東泊津、川上悦夫さんの生産馬。サクラローレルなど数々の名勝負を残され、菊花賞、有馬記念などG1レース四勝の成績を残しています。

競馬ファンに惜しまれながら阪神競馬場で引退式を行い十二月三日、生まれ故郷に帰ってきました。今年の春から、けい養先の優勝スタリオンステーション（有）で種牝馬として第二のスタートがきられます。』

新冠に戻ったマヤノトップガン号は、平成26年まで優勝スタリオンステーションの種牝馬として活躍し、現在は、ゆつくりと余生を送っていることです。

「広報にいかっぷ第500号 平成19年4月号」

広報500号の表紙は、太陽小学校で行われた最後の卒業式です。

『最後の卒業式』太陽小学校卒業式より、平成20年3月に閉校を迎える太陽小学校。4月から6年生になる児童がいないため、これが太陽小学校最後の卒業式となりました。式の最後は在校生、先生、参加した地域の皆さんが手でアーチを作り2人の卒業生を送り出しました。』

町では、平成20年3月に、若園、明和、太陽、美宇、東川小学校を朝日小学校に統合、また、大狩部、節婦小学校を新冠小学校に統合しました。

そのような中、太陽小学校では、統合する最終年に卒業生がおらず卒業式が行われないことから、一年前の平成19年3月に、最後の卒業式が行われました。太陽小学校は、昭和22年5月に地域の児童約70名が就学する「木の皮学校」として創立したことに始まり、その後、二度の校舎の建て替えを経て、平成20年までの62年にわたり子どもたちの学び舎として、また、地域コミュニティの拠点として太陽地区の発展に重要な役割を担ってきました。



また、この広報誌は、新春号ということで、岡町長の新年の挨拶が掲載されており、その中で、平成9年6月8日にレ・コード館が開館したことへの喜びが書かれています。

『初舞台は自分たちの手』で、約三百人にも及ぶ町民の皆さんの参加により、感動・感激の音楽劇「飛翔にいかっぷ」の公演をいただき、レ・コード&音楽によるまちづくり、レ・コード館のオープニングを飾っていただいたところであり、まさしく町民文化の殿堂として大きく位置づけられたところであります。』

岡町長は、昭和34年に新冠村議に初当選した後、8期にわたり町議を務め、この間、町議会議長や町農協組合長、日本軽種馬協会副会長などを歴任し、小野木町長退任後の平成元年6月に、61歳で町長に初当選しました。

平成17年4月に、健康上の理由により任期を約2か月残しての勇退となりますが、この約4期（15年10か月）の間に、「うるおいと活力のあるふるさと」をめざして「レ・コード&音楽によるまちづくり」をはじめとする、独創的な事業をエネルギーに展開しました。



「広報にいかっぷ第550号 平成23年10月号」

平成23年、当町は、明治14年9月に新冠郡高江村外十力村戸長役場が高江村に設置されてから130年、昭和36年に町制が施行されてから50年という節目の年を迎えました。

これを記念して、9月1日にはレ・コード館で開町130年を祝う記念式典が開かれました。

広報誌には、式典で小竹町長が述べた式辞が紹介されています。『式典では小竹町長が、「厳しい自然環境の中、数々の困難に立ち向かい不屈の開拓精神をもって、今日の新冠町の礎を築いた先人の苦労と偉業に対し感謝の意を表した

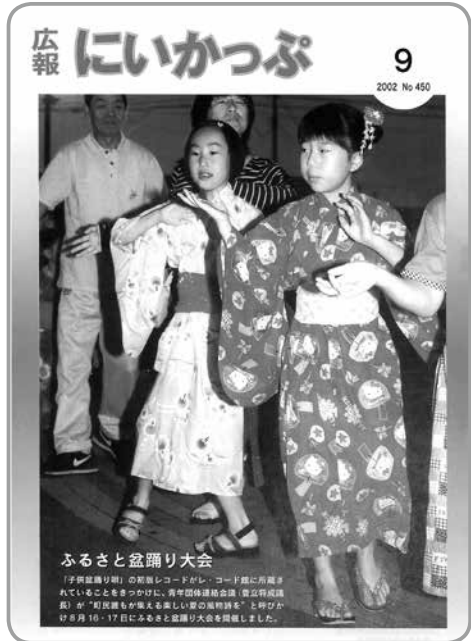
「広報にいかっぷ第450号 平成14年9月号」

表紙には、新冠町青年団体連絡会議が初めて開いた『ふるさと盆踊り大会』の写真が掲載されています。

ふるさと盆踊りは、毎年8月中旬に行われており、今では夏の風物詩となっており、最初の開催のきっかけとなったのは、レ・コード館で発見された一枚のSPレコードでした。

『子供盆踊り唄の初版レコードがレ・コード館に所蔵されていることをきっかけに、青年団体連絡会議が「町民誰もが集える楽しい夏の風物詩を」と呼びかけ、8月16・17日にふるさと盆踊り大会を開催しました。』

以前は、それぞれの自治会で盆踊りを行っていましたが、子どもの減少などで実施する自治会が減り、今では珍しい風景となりました。



このような状況においては、家族や地域の皆で参加できる盆踊りは貴重な機会であり、また、伝統事業の継承という点でも重要な事業になっています。同協議会によると、今年の盆踊りは、8月13日土曜日の実施を予定しているとのことで、多くの町民の皆さんに足を運んでほしいと話をしていました。この広報誌をさらに読み進めると、モンゴル国ナライハ市との国際交流事業の様子も掲載されています。

モンゴル国ナライハ市との交流は、次世代を担う子ども達が他国の文化を知り、相互理解を深める中で、豊かな国際感覚を養い、この経験を地域に活かす事ができる人材育成を図るために行われました。

平成14年と16年には、新冠町から小学校5・6年生と引率者32名がナライハ市を訪れ、また、平成15年と17年には、ナライハ市から市長や子ども達が当町を訪れ相互交流を行いました。

平成14年は、新冠町からナライハ市に初めて訪問団が訪れた年で、参加した子どもたちは、ゲルに宿泊したり、現地の子どもたちと交流をしたり、また、日本の文化を紹介し、日本食をふるまうなどして現地の人たちと交流を行いました。

「特集記事の編集を終えて」

特集記事の編集をする中で、過去の町の広報誌をじっくりと読み返す機会となりました。

過去の広報誌には、フィルムカメラで撮影された迫力のある写真や8ページにわたる特集記事があり、また、町の歴史を語り継ぐ長老の言葉が掲載されているなど、それぞれの時代の編集担当者が試行錯誤した様子が誌面に映し出されているように感じました。

そして、昔の広報誌は写真もページ数も少なく、今より制作効率が悪かったにも関わらず、記事に勢いがあり、読んでいて面白いというのが率直な感想でした。これからも「広報にいかっぷ」の発行は続いていきますが、読者の皆さんに「読みたい」と思っていただけの広報誌づくりを進めていきたいと思っていますので、どうぞよろしく願います。

昔の広報誌については、郷土資料館に保存しており、閲覧可能となっており、興味のある方は、資料館にお越しください。

最後に、今回の特集記事の編集にあたり、大下謙二さんや渡邊美那子さん、郷土資料館の新川学芸員に昔の町の様子についてお話を伺いました。ご協力いただきありがとうございました。